

案	改定方法	改定率	基本 水量	基本 料金	超過料金 区分 (追加区分)	基本料金 回収率 (理想) R3:30.5%	損益分岐点 現行:55m ³	改定による影響 (一か月当たりの料金増減)						
								口径13mm			口径20mm	口径25mm	口径100mm	
								4m ³ /月	8m ³ /月	20m ³ /月	100m ³ /月	100m ³ /月	2,000m ³ /月	
①	基本料金 値上げ (加算単価:平均22.9%)	7.0%	8m ³	835円~	6	35.1% (40.6%)	54m ³	基本	155 円	155 円	155 円	155 円	255 円	4,310 円
								超過	円	円	円	円	円	円
								総額	155 円	155 円	155 円	155 円	255 円	4,310 円
②	基本料金 値上げ (加算単価:155円固定)	6.7%	8m ³	835円~	6	34.9% (40.6%)	54m ³	基本	155 円	155 円	155 円	155 円	155 円	155 円
								超過	円	円	円	円	円	円
								総額	155 円	155 円	155 円	155 円	155 円	155 円
③	基本料金 据置き 超過料金区分追加	7.0%	4m ³	680円~	7 (5-8m ³ 追加)	28.5% (28.9%)	53m ³	基本	円	円	円	円	円	円
								超過	円	208 円	208 円	208 円	208 円	208 円
								総額	0 円	208 円	208 円	208 円	208 円	208 円
④	基本料金 値上げ (加算単価:平均12.3%) 超過料金区分追加	7.0%	4m ³	760円~	7 (5-8m ³ 追加)	31.9% (28.9%)	53m ³	基本	80 円	80 円	80 円	80 円	140 円	2,340 円
								超過	円	100 円	100 円	100 円	100 円	100 円
								総額	80 円	180 円	180 円	180 円	240 円	2,440 円
⑤	基本料金 値上げ (加算単価:80、100円固定) 超過料金区分追加	7.0%	4m ³	760円~	7 (5-8m ³ 追加)	31.9% (28.9%)	53m ³	基本	80 円	80 円	80 円	100 円	100 円	100 円
								超過	円	100 円	100 円	100 円	100 円	100 円
								総額	80 円	180 円	180 円	200 円	200 円	200 円
⑥	基本料金 据置き 超過料金区分追加	7.0%	無	680円~	7 (1-8m ³ 追加)	28.5% (15.2%)	53m ³	基本	円	円	円	円	円	円
								超過	96 円	192 円	192 円	192 円	192 円	192 円
								総額	96 円	192 円	192 円	192 円	192 円	192 円
⑦	基本料金 値上げ (加算単価:平均3.6%) 超過料金区分追加	7.0%	無	705円~	7 (1-8m ³ 追加)	29.6% (15.2%)	53m ³	基本	25 円	25 円	25 円	25 円	40 円	660 円
								超過	80 円	160 円	160 円	160 円	160 円	160 円
								総額	105 円	185 円	185 円	185 円	200 円	820 円

案	改定方法	評価項目		考察
		安定した 料金収入の確保	業務用依存度の緩和	
		基本料金 回収率向上	損益分岐点の 引下げ	
①	基本料金 値上げ (加算単価:平均22.9%)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 全口径の基本料金をほぼ均等に値上げ(平均22.9%)したもの。8㎡の基本水量のため、いわゆる家事用の口径13、20mmの月4㎡使用の総額の値上げ幅が②と並んで最も高いが、月8㎡以上使用した場合の総額は、②と並んで最も低い。一方、いわゆる業務用の口径25、100mmの値上げ幅は最も高い。 基本料金回収率は、基本料金の値上げに加え8㎡の基本水量を継続するため、令和3年度から4.6ポイント改善し7つの案で最も高いものの、理想とする回収率には届かない。 損益分岐点は、現行の55㎡から54㎡に改善することから、通増性が緩和される。
②	基本料金 値上げ (加算単価:155円固定)	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ①で算出した口径13、20mmの値上げ額155円を全口径に加算したもの。そのため、口径25、100mmの値上げ幅が最も小さい。口径が大きくなるほど、改定率が通減する。 基本料金回収率は、基本料金の値上げに加え、8㎡の基本水量を継続するため、令和3年度から4.4ポイント改善するが、理想とする回収率には届かない。 損益分岐点は、現行の55㎡から54㎡に改善することから、通増性が緩和される。
③	基本料金 据置き 超過料金区分追加	△	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本水量を8㎡から4㎡としたもの。基本料金は据置きのため、月4㎡までは値上げが生じないが、新設した5-8㎡の超過料金に料金収入不足額を全て算入するため、月8-20㎡使用の総額は最も高い。 基本料金回収率は、基本料金据置きのため、令和3年度の回収率から2.0ポイント下がる。また、理想とする回収率にも届かない。 損益分岐点は、現行の55㎡から53㎡に改善することから、通増性が緩和される。
④	基本料金 値上げ (加算単価:平均12.3%) 超過料金区分追加	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本水量を8㎡から4㎡とし、全口径の基本料金をほぼ均等に値上げ(平均12.3%)したもの。月4㎡使用の総額は、7つの案で⑤と並んで2番目に安く、月8-20㎡使用は⑤と並んで3番目に安い。口径25、100mmの値上げ幅は2番目に高い。 基本料金回収率は、基本料金の値上げにより、令和3年度から1.4ポイント改善し、理想とする回収率を上回る。 損益分岐点は、現行の55㎡から53㎡に改善することから、通増性が緩和される。
⑤	基本料金 値上げ (加算単価:80、100円固定) 超過料金区分追加	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> ④で算出した口径13、20mmの値上げ額80円を口径13mmに加算し、口径20mm以上に一律100円を加算したもの。月4-20㎡使用の総額は④と同じ。口径25、100mmの値上げ幅は2番目に小さい。口径が大きくなるほど、改定率が通減する。 基本料金回収率は、基本料金の値上げにより、令和3年度から1.4ポイント改善し、理想とする回収率を上回る。 損益分岐点は、現行の55㎡から53㎡に改善することから、通増性が緩和される。
⑥	基本料金 据置き 超過料金区分追加	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本水量を廃止。基本料金は据置きだが、新設した1-8㎡の超過料金に料金収入不足額を全て算入するため、月8-20㎡使用の総額は2番目に高い。 基本料金回収率は、基本料金据置きのため、令和3年度から2.0ポイント下がるが、理想とする回収率は達成できる。 損益分岐点は、現行の55㎡から53㎡に改善することから、通増性が緩和される。
⑦	基本料金 値上げ (加算単価:平均3.6%) 超過料金区分追加	◎	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本水量を廃止し、全口径の基本料金を均等に値上げ(3.5%)したもの。新設した1-8㎡の超過料金と基本料金に分かれて算入するため、口径13、20mmに係る基本料金を値上げする案の中で、値上げ幅は最も低い。 基本料金回収率は、基本料金を値上げするものの、基本水量を廃止することから、令和3年度から0.9ポイント下がるが、理想とする回収率は達成できる。 損益分岐点は、現行の55㎡から53㎡に改善することから、通増性が緩和される。

⇒ 考察による結論

上記採点表から、損益分岐点の引下げについては差がないものの、基本料金の回収率向上という点では、理想とする回収率を上回る案は、④から⑦である。

料金総額の値上げ幅を見ると、負担の少ない①か②となるが、現在の基本水量8㎡と下水道の基本水量4㎡との乖離を解消するには、最低でも4㎡とする必要があることから、①及び②は不採用とする。

残りの③から⑦の比較だが、③は基本料金の回収率向上の点で、他案より劣ることから不採用とする。

基本水量のあり方という点では、算定要領や近年の他事業体の動向から、⑥や⑦のとおり廃止とすることが望ましいが、負担増に伴う市民生活への影響を考えると、家事用が多い区分である月8-20㎡の値上げ幅は、④と⑤が最も低い。

昨今の物価高の状況下に加え、こうした状況がどこまで続くのか先行き不透明な中において、少しでも値上げについて理解を得られる案は、④若しくは⑤と考えられる。

なお、④と⑤は、財政計画における料金収入額にそれぞれ達しないが、差額は1年あたり約38万円程度であるため、誤差の範囲として整理する。

したがって、水道料金の改定については、**④案及び⑤案を、審議会からの答申案として事務局から提案するもの。**

ただし、少しでも業務用への依存度を緩和するとすれば、基本料金の値上げ額が一律である⑤案が望ましいと考えられる。

下水道料金シミュレーション案 比較表

資料 4-1

案	改定方法	改定率	基本 水量	基本 料金	超過料金 区分	基本料金 回収率 (理想)	損益分岐点	改定による影響 (一か月当たりの料金増減)					
					(追加区分)	R3:13.6%	現行:43m ³	4m ³ /月	8m ³ /月	20m ³ /月	100m ³ /月	2,000m ³ /月	
①	基本料金 値上げ	5.0%	4m ³	500円	9	17.7% (38.5%)	41m ³	基本	135 円	135 円	135 円	135 円	135 円
								超過	円	円	円	円	円
								総額	135 円	135 円	135 円	135 円	135 円
②	基本料金 据置き 超過料金区分追加	5.0%	無	365円	10 (1-4m ³ 追加)	13.0% (27.8%)	41m ³	基本	円	円	円	円	円
								超過	140 円	140 円	140 円	140 円	140 円
								総額	140 円	140 円	140 円	140 円	140 円
③	基本料金 値上げ 超過料金区分追加	5.0%	無	405円	10 (1-4m ³ 追加)	14.4% (27.8%)	41m ³	基本	40 円	40 円	40 円	40 円	40 円
								超過	100 円	100 円	100 円	100 円	100 円
								総額	140 円	140 円	140 円	140 円	140 円

案	改定方法	評価項目		考 察
		安定した 料金収入の確保	業務用依存度の緩和	
		基本料金 回収率向上	損益分岐点の 引下げ	
①	基本料金 値上げ	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本料金の値上げ幅は③より高いが、超過料金が据置きのため、総額は3つの案で最も低い値上げ幅である。 基本料金の回収率は、基本料金の値上げに加え、4㎡の基本水量を継続することから、令和3年度から4.1ポイント改善し、3つの案で最も高い回収率となるものの、理想とする回収率には届かない。 損益分岐点は、現行の43㎡から41㎡に改善することから、逓増性が緩和される。他案と同じ
②	基本料金 据置き 超過料金区分追加	×	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本料金は、据置きのため値上げは無いが、新設した1-4㎡の超過料金により、総額は③と同額で①より高くなる。 基本料金の回収率は、基本水量を廃止し、基本料金は据置きとするため、令和3年度よりも0.6ポイント下がり、3つの案で最も低く、理想とする回収率にも届かない。ただし、基本水量の廃止は、算定要領の趣旨に沿ったものである。
③	基本料金 値上げ 超過料金区分追加	×	○	<ul style="list-style-type: none"> 基本料金の値上げ幅は①より低いですが、新設した1-4㎡の超過料金との総額では、②と同額で①より高くなる。 基本料金の回収率は、基本水量を廃止し、基本料金を値上げするため、令和3年度から0.8ポイント改善し、3つの案の間になるが、理想とする回収率には届かない。

⇒ 考察による結論

上記採点表から、損益分岐点の引下げについては差がないものの、基本料金の回収率向上という点では①が上位となる。

一方、基本水量のあり方という観点では、算定要領等の考え方に沿っているものは②と③である。

しかしながら、「市民負担を最小限のものとする」という経営方針の観点から、昨今の物価高の状況下に加え、こうした状況がどこまで続くのか先行き不透明な中において、少しでも値上げについて理解を得られる案は、基本料金と超過料金の合計額が最も低い①であると考えられる。

したがって、下水道使用料の改定については、①案を、審議会からの答申案として事務局から提案するもの。